

すまい・まちづくりフェア (とあるまちかどで)

A 男：すまい・まちづくりフェアで知ってる？

B 子：それ何？

A 男：神戸に住んでるんだから、知ってないとなあ。

B 子：だから教えてよ。

A 男：名前の通りさ。

B 子：それじゃあ答えになってないわ！

A 男：えーっと、すまいとまちづくりについてのイベントかな？展示場があつてえ……。

B 子：展示場ではどんな展示をしているの？

A 男：えーと何かな？まだ行ったことないし。

B 子：頼りないわねえ。パンフレットか何かないの。

A 男：そうそう、あるある。はい。

B 子：ふーん。「もっとコミュニティ」か。ふーん。「まちの魅力と元気がいっぱい！」ねえ。「すまい」を通してみるまちづくりと震災から学んだことを考えるイベントのことね！

へー、楽しそうね、行ってみたいわ。展示場はポートタワーの北側の中突堤中央ビル1階「まちとくらしのミュージアム」ね。JR 元町駅が近いかな。阪神だったら元町駅だし、神戸高速なら花隈駅よね。

A 男：駅からどのくらいかかるんだろ。

B 子：歩いて10分くらいでしょ。あなたこそ神戸を知らないじゃない！

A 男：そんなこと言われても……。

B 子：もういいわ。展示場へ行きましょ。JR 元町駅まで電車ね。

【元町から歩いてミュージアムへ。】

B 子：とりあえず受付に。こんにちは！

コンパニオン：いらっしやいませ。

B 子：ここではどんな展示をしていますか。

コンパニオン：はい。ここでは、阪神・淡路大震災で学んだことを中心に「すまい」を通して人と人とのコミュニティやまちづくりを紹介しています。ドラえもんが震災以降の神戸の姿を案内し、コミュニティの大切さを学ぶ「ドラえもんシアター」を上映、また、昭和20年代の市営住宅と路地を再現し、向こう三軒両隣が体験できる「なつかしコミュニティタウン」。市民が中心となったギャラリー「コミュニティギャラリー」などがあります。ぜひ、ご覧ください。



B 子：ミュージアムはいつまでやってるの？

コンパニオン：9月30日まで開催しております。水曜日は休館とさせていただきます。

(夏休み中は無休)

B 子：ありがとう。見て回りますよ。

A 男：コンパニオンのみなさん美人だねえ。

B 子：あのね、何しにきたの？

【4ページに進む】

こども110番「青少年を守る店・守る家」開設市民運動

神戸市では、子どもが被害者となる事件を未然に防ぎ、地域の大人社会が子どもたちの健全育成を温かく見守る運動を進めるために、店舗や民家を、こども110番「青少年を守る店・守る家」として協力を求めています。

現在は、1万軒以上にわたる「青少年を守る店・守る家」の温かいご協力をいただいています。

1. こども110番「青少年を守る店・守る家」の役割

通学路や遊び場を中心に、子どもたちが怖い目や危ない目にあった時の万が一の「駆け込み寺」として、子どもの緊急避難や一時保護にあるいは、学校や保護者に緊急の連絡を取っていただく場所として協力を求めています。

街の中で、右のステッカーを貼った店舗や民家を見つけたらこれが「青少年を守る店・守る家」です。ぜひ子どもたちに教えてあげてください。

2. 皆様のご協力を！

神戸市青少年問題協議会では、1軒でも多くの方に「守る店・守る家」としてご協力いただくために、地域の青少年育成委員がそれぞれ店舗や民家にお伺いしています。

皆様のご協力をよろしくお願いします。



お問い合わせ：市民局生活文化部青少年課、電話322-5182
各區市民部総務課地域活動係

「台所の100年展」を開催します

消費者問題に関する優れた著作に贈られる神戸賞に「台所の100年」（日本生活学会編）が平成12年度を受賞作に選ばれました。この作品は、生活の変遷を台所から見つめたものであり、この作品にちなんで『台所の100年展』を下記の要領で開催します。

日 程 平成13年7月13日（金）～15日（日）

場 所 ハーバーランドスペースシアター

JR神戸駅南徒歩5分ハーバーサーカス地下1階前

内 容 ここ100年に台所がどのように変わってきたか、パネル展示を中心にその変遷をたどるとともに、環境問題への消費者・事業者・行政の取り組みの現状を実物の展示なども含め紹介します。



問い合わせは

神戸市市民局生活文化部消費生活課 電話322-5185

イギリスの居住地改善とまちづくり 3

平成11年秋、「こうべまちづくりセンター」において、グラスゴー市のまちづくりを紹介する講演会が開催された。来神したのは、市の行政担当者、建築家、芸術家である。講演会終了後、彼らと意見交換する場がえられ、そこでスコットランドでの再会を約することができた。今回は、グラスゴー市で行われている専門家と住民、行政が連携したすまい・まちづくりの活動を紹介します。

■インナーシティの再生

グラスゴー市役所のマカリストア次長は、神戸で私の手帳に「ハ・イヴ（建築家）ならもっと上手でしょうね」と言いながら、「光の家(Light House)」のスケッチを描いた。彼女は、都市再生局(Development and Regeneration Services)に勤務し、前年まで市政活性化のイベントとして開催された“Glasgow 1999-UK City of Architecture and Design”のスタッフであった。グラスゴー市はスコットランド第1の産業都市である一方、マッキントッシュなどの建築家を生んだ芸術都市でもある。「光の家」は、都心に残るマッキントッシュ設計の古い建物を、イベントの一環として、デザインやまちづくりの展示・研修がおこなえる施設に改造したものである。

次長と市庁であいさつをした後、都心部の再整備、活性化への試みについて現地案内していただいた。出かけるとき、彼女は携帯電話を取り出し私に見せた。「今日娘の出産予定で、この電話が鳴ると私もしばらく忙しい毎日になる」とのこと。なるほど、日本で会った時よりうきうきとした感じだ。

グラスゴーの都心周辺も空洞化が進んでいる。街並みデザインに配慮し、空いたオフィス、倉庫などを住宅、店舗、レストランなどに再整備したり、使われない教会をギャラリーに改装するなどし、道路の美装化も実施している。

「光の家」で、建築家のハ・イヴ氏に再会した。建物の再整備では、ビクトリア調の建物デザインを生かし設計に工夫を加えている。住宅に改造するときは、建物のトップに表情を付けたり、連続する街並みの文脈に沿い斬新なデザインによるアクセントを加えながら、整備を行っている。壁面保存による再生の事例もある。

■居住地の再生

居住地の再生では、ハ・イヴ氏から高層住宅を主体とする公営住宅地を案内された。近代建築を象徴するモ

ダンスタイルの高層住宅が再建され、通りとビクトリア調の住宅デザインが復活している。一部のブロックでは、複数の建築家の設計による分譲住宅群が完成し、ハ・イヴ氏設計の住宅もある。近隣商業センターは閉鎖され、再生はおおきな課題だ。空いた教会はコミュニティセンターに転用され、一部はケア付き老人住宅に活用されている。当日は高齢者の方がダンスをしており、ダンスをしないかと誘われた。

地区で、コミュニティといっしょに美術作品をつくる芸術家(コミュニティ・アーティスト)ペデン女史のアトリエを訪ねた。彼女たちはこの地区の住民でもある。松ぼっくりをモチーフにした車止めやグラスファイバーのレリーフなどの作品がある。仲間のひとりと帰路についたが、すれ違う地元の子供たちが、皆うれしそうに彼にあいさつするのが印象的だった。

■ガバンヒル住宅協会

市役所の紹介で、25年前から活動を続けているガバンヒル住宅協会を訪ねた。住民で、管理委員会のメンバーのユーイングさんとファレルさんに小雨のなか地区を案内していただいた。

この住宅協会の委員会は専属スタッフ、コミュニティ代表、サポートする専門家で構成されている。1890年代の住宅が多く、当時は市営住宅と民間借家であったが、順次住宅協会の所有・管理に変わり、リニューアルや建替えを適宜行っている。大規模な病院があったが、建物の一部は住宅協会によりアルコール依存症や未婚の母親のためシェルターに転用されている。一部は民間住宅として活用するためコンペが実施されている。地域住民のため職業訓練を行うプログラムも検討されている。

この住宅協会はコミュニティベースで活動しており、今後の居住地管理のあり方として興味深い。2月の小雨のなか親切に案内していただいたおふたりにほんとうに感謝したい。



ガバンヒル住宅協会のおふたり
1世紀前からある有名な建築家設計の集合住宅の前で

住宅局民間住宅課係長 矢島 利久

【1ページのつづき】

A 男：えっ、いや、コミュニティの大切さを学びにきたんだろ。まちづくりの重要性とか。

B 子：ちょっとは学習能力があるみたいね。

【ミュージアムを見学中】

A 男：いやー、市営住宅の再現はすごいねえ。昔はほんとに狭い家に住んでいたんだねえ。

B 子：でも、周辺の人と分かち合いながら生活していた様子が当時そのものって感じがして感動！こんなところで醤油や味噌を貸し借りしてたのよね。でもあなた、シアターで寝たでしょ！ドラえもんシアターも感動的だったのに。

A 男：疲れてたもんで。失敬！だけど、まちに花を咲かせるゲーム。あれ面白かったねえ。

B 子：ほんとに大事なことってわかってないんじゃないの？(もうだめね!)コンパニオンさん、このミュージアムのほかにどんなことをしているのですか。

コンパニオン：その件につきましては、すまい・まちづくりフェア実行委員会事務局にご連絡していただければくわしくご案内させていただきます。

B 子：わかったわ。そちらに電話しよ。【電話】すみません。すまい・まちづくりフェアについてお聞きしたいのですが、ミュージアム以外にどんなことをやっているのですか。

G 氏：はい。ミュージアムの西隣に住宅の建てる行程を見学できる神戸市最大級の住宅展示場「まちなみモデルタウン」を建設中です。

また、パンフにあるセミナー・イベントを随時開催しております。もうひとつ、まちを实际にみていただき神戸のまちなみをラリー形式で実感する「きて・みて・こうべラリー」(6月17日は兵庫区で、9月の3連休にはファイナルラリー)も開催しておりますのでぜひともご参加ください。

B 子：へー、もっと神戸とそこに住む人たちを知りたいから、今度はラリーに参加しよ。

G 氏：ありがとうございます。

B 子：ご親切にありがとうございました。

【電話を切る】

A 男：行こう行こう。ほくもラリーに行くよ！

B 子：もうあなたとは行かないわよ。頼りないんだから。他の人と行ってちょうだい。それじゃあ、さよなら！

A 男：そ、そんなこと言うなよ。B子おー！

てなことはないように、みなさん、楽しくすまい・まちづくりフェアを堪能してください。

折り込みの冊子を見てね！

【問い合わせ】

すまい・まちづくりフェア実行委員会事務局

Tel 078-333-3396

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
5月31日(木)~6月5日(火)	第12回 KP展(パステル画)	黒住 節子
6月 7日(木)~12日(火)	第2回 ぶどうの会作品展(油彩)	大西 正雄
6月14日(木)~19日(火)	兵庫県書作家協会作品展	まちづくりセンター企画展
6月21日(木)~26日(火)	燦月会油彩画展	大木 丈雄
6月28日(木)~7月3日(火)	三滴会こうべ書道展	三滴会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

6月 1日(金)~30日(土)	土砂災害防止月間展	国土交通省六甲砂防工事事務所
-----------------	-----------	----------------

図書販売のお知らせ

協働のまちづくり・すまいづくり —震災復興土地区画整理における共同建替の記録—	¥1,500	別途送料を申し受けます。 申し込みは、当センターまで
--	--------	-------------------------------